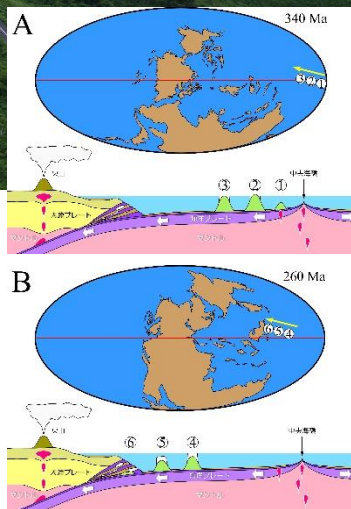


秋吉台の洞窟

秋吉台の概要

秋吉台は山口県中西部に位置し、約 100 km² の面積を持つ、なだらかな高原状の石灰岩台地です。秋吉台では、数百万年前には発達した地下水系に特徴付けられるカルスト化が始まっていたと考えられています。その全域において、地下の洞窟、台地上のドリーネやカレンフェルト、麓の吸い込み穴やポソール、カルスト湧泉など、多様なカルスト地形が形成されています。貴重な地質・地形が広がっていることから、国の特別天然記念物・国定公園に指定されています。



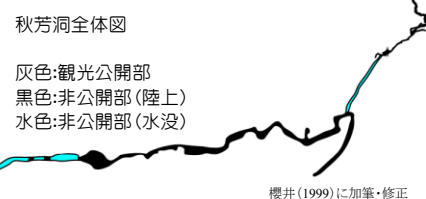
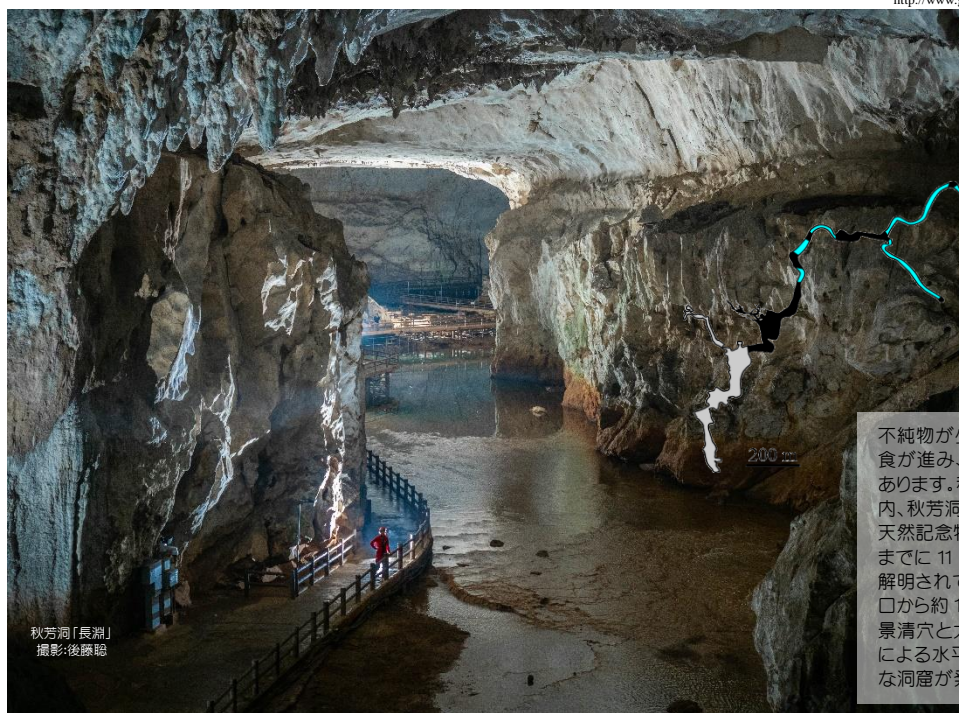
秋吉台の成り立ち

秋吉台を構成する秋吉石灰岩は、約 3 億 4 千万年前から約 2 億 6 千万年前にかけて大洋域で形成された生物礁に由来します。この生物礁の成長は約 8 千万年間に渡って継続し、海洋プレートの運動により 1 万 km 以上の距離を移動した後、大陸プレートに付加しました。そこに生息していた海洋生物化石の研究によって、当時の地球規模の古海洋環境の変遷が詳細に解析されるなど、世界的に貴重な石灰岩です。

生物礁の形成と移動

- A: 3億4千万年前～
B: ～2億6千万年前
- ① 海底火山の噴出
 - ② 火山島付近に生物礁が発達
 - ③ 沈降する島の周囲で発達が継続
 - ④ 島の頂部で生物礁が上方に成長
 - ⑤ 海山として海溝に沈み込む
 - ⑥ 大陸プレートに付加
- ※①～⑥は模式的な推定位置

<http://www.glyfac.buffalo.edu/mib/course/Figures/NAU/BlakelyPT/>より取得した画像を改変



秋吉台の洞窟

不純物が少なく緻密な秋吉石灰岩では、岩の割れ目沿いに溶食が進み、立体的な迷路状洞窟が発達しやすいという特徴があります。秋吉台では 453 以上の洞窟が確認されており、その内、秋芳洞は国の特別天然記念物に、景清穴・大正洞・中尾洞は天然記念物に指定されています。最長の洞窟は秋芳洞で、これまでに 11 km 以上が調査されましたが、未探検部も多く全容は解明されていません。秋芳洞は国内最大の空間規模を持ち、洞口から約 1 km の範囲が観光洞として公開されています。また、景清穴と大正洞も観光洞であり、景清穴では地下河川の侵食による水平な洞窟が、大正洞では水中洞窟に由来する立体的な洞窟が発達しています。

